（様式２・中学校用①）

令和４年度　学　校　評　価　報　告

草加市立谷塚中学校
（令和５年２月１５日作成）

１　学校教育目標

○学び合う生徒（知）　○思いやる生徒（徳）　○高め合う生徒（体）
校訓「文武両道」

２　重点目標・努力目標	３　前年度の成果と課題
1　信頼される学校 2　確かな学力の育成 3　豊かな心の育成 4　健やかな体の育成 5　教育課程の改善	成果 ○タブレットPCの導入により、主体的・対話的で深い学びの実現にむけ、指導法が工夫された。生徒同士が学び合う場面が増え、発表の場面でも、タブレットPCを活用して、わかりやすい発表ができた。 ○日程の変更や開催規模の縮小・中止等がある中であったが、各クラスや学年が団結して、一体感を感じられる行事ができた 課題 ●支援を必要とする生徒がいる。個々の支援の仕方は異なるため、学校全体で組織的に継続的に支援を続け、生徒の一人一人の成長や自立につなげていく。本校の不登校は喫緊の課題である。不登校の生徒への個々の支援を継続する。 ●経験の浅い教員の指導力の向上のために、相互の授業参観、小学校への参観、研修会の充実を行っていく必要がある。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○多くの行事は予定通り実施できた。生徒が主体となり、活躍する場面も多く、学校全体で協力して取り組めることができた。 ○分担して仕事をすることで、負担が減った場面もあった。 ●負担のある分掌が一部の職員頼みのところが見依然として見受けられる。学校全体で組織的に関わりを持つようにしていく。 ●行事運営がより円滑になるように、計画的に会議を実施する。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○不登校やヤングケアラーについての支援、道徳の抜本的な改善に関わる研修等、多くの先生方の実態に即した研修ができた。 ○外部の方との研修が充実していた。 ●授業改善や学力向上といったテーマでの研修があまり取れなかった。先生方の授業力の向上を図る機会を設けたい。また、一貫教育では、全体で取り組む必要性がある。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭を中心に、生徒や職員の保健に対する意識は高まった。 ○HQCシートを活用して定期的に生徒の基本的な生活習慣を振り返り、実態把握に努め、健康面で効果を上げた。 ○学校保健委員会に生徒・保護者が参加をし、充実した話合いができた。 ●けが人への対応を、安全面での配慮を踏まえ、再度職員全体で確認する必要がある。

	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○タブレットPCが、生徒の活動も含め、多くの場面で積極的に活用されている。 ●タブレットPCや周辺機器の管理や不十分であり故障も多くあった。管理を徹底していく。 ●施設の老朽化が依然としてある。市教委と連携しながら、計画的な修繕を進めていく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校便りなど各種便りやメール配信を通じて、必要な情報を速やかに発信した。また、日程の急な変更についても、速やかにメールや通知文で連絡をすることができた。 ○保護者・地域との交流が少しずつできるようになってきた。ヤングケアラーでの研修・シンポジウムでは、地域の方や運営協議会が来られ、学校全体でテーマを考えるよい機会となった。 ○３年ぶりに、地域の方と共に、避難所開設等の防災訓練が実施できた。 ●交流行事や学校参観等については、今後できる内容を検討して、実施をしていく。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小学校６年生の体験授業や作品交流など、新たな取り組みが今年度もできた。 ○委嘱研究である読書活動について、小中間での共通したアンケートを実施するなど、学校区での読書活動が推進できた。 ●担当を中心に活動を活発的に行ったが、一部の人に負担が多くなってしまい、全体で取り組む場面が少なかった。学校全体で一貫教育の取組を進める。

（様式２・中学校用②）

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○学校行事は概ね、予定通り開催ができた。生徒が主体となった活動も多く見られた。 ○目指す生徒像について、相手を尊重して対話でき、自分らしく生きる生徒は、相手の意見に耳を傾けて、自分の意見を持てる生徒が増えた。 ●各行事で内容が周知できなかった場面があるため、協議を重ね、よりよい行事を作っていく。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○話合い活動、ICTの活用等、知識の教え込みにならない授業展開が概ねされている。 ○中間層の生徒を伸ばす手立てを、学校全体で考え、学力調査では多くの教科で目標値を超えた。 ●教科間で連携が取れていない場面もあるため、教科会や研修で授業力の向上を図り、評価の工夫をさらにする必要がある。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○学年でのローテーション道徳の授業を行い、単元を決めることで準備の負担が減った。 ○担任以外も道徳の授業を行うことで、学校全体での道徳の意識が高まった。 ●道徳の評価については、学校全体で検討をして、より生徒の実態に即した評価をしていく。

④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○年数回、スキルトレーニングを授業で行うなど、学校の実態に応じた取組ができた。 ○生徒主体の学校行事や生徒会活動が多く見られた。 ●経験の浅い職員も多いため、学級経営のスキルの向上が課題でなる。
⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○学年の担当を中心に、活動を進め、多くの生徒が自己有用感を感じさせることができた。 ○SDGｓを絡めて世界の問題に目を向けさせることができた。 ●各学年の実態に応じて指導内容を編成した。今後、年間指導計画を見直す必要がある。
⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導の先生方や学年主任を中心とした組織的な対応ができているため、落ち着いた学校が保てている。 ○問題行動やいじめ防止対策について、初期対応を迅速に行い、生徒指導担当、学年など組織的に対応して、保護者とも概ね、連携が取れている。 ○ヤングケアラーについて、地域の方、外部の方を招いての研修や講演は生徒・職員と一緒なって考えるよい機会となった。 ○不登校生徒への対応を、担任だけでなく学年やSC・SSW・相談員や支援員に関わってもらい、外部機関とも連携を密にして対応をすることができた。 ●信頼される学校、教師となるために、身なりや立ち振る舞い、特に言葉遣い等を、今一度、学校全体で気をつけていく。 ●支援を必要とする生徒が在籍しているため、個に応じた適切な支援を組織的に継続的にする必
⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○総合的な学習を通して、各学年、進路やキャリアについての学習が十分に確保できた。また、進路学習会やキッザニアの遠足等、体験できる機会を確保できた。 ●キャリア教育に関する情報が毎年、大きく変わっているため、職員もアンテナを高くする必要がある。
⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○一人ひとりに合わせた支援や方法を組織的に考え、適切な指導を心がけた。 ○支援が必要な生徒に対して、適切な支援を実施することができた。 ●各クラス、支援を必要としている生徒が在籍しているため、支援を組織的に考え、個に応じた適切な支援を継続していく。
⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○図書担当や図書委員の生徒を中心に、図書館の利用、読書活動が学校全体で活発になった。 ○学校区の小学校と連携を図り、相互の読み聞かせやアンケート結果の活用等、読書が好きになる生徒が増えた。 ●担当に負担が偏ってしまったため、学校全体で負担が減る方法を考える必要がある。

	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○タブレットPCの活用が多くの授業や教育活動で活用し、感染予防等にも活用ができた。 ○生徒が二次元コードを作成して、アンケートを集計するなど、生徒が主体となって活用するっ場面が見られた。 ●タブレットPCの消耗が著しい。管理面も含め、改めて共通理解を図る。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○教科指導の際、人権教育に触れる機会を多く作った授業があった。 ○ヤングケアラーでの研修や講演では学校全体で人権問題を考えるきっかけとなった。 ●人権について、学校の実態に即して人権教育の計画実践を検討していく。

（様式２・中学校用③）

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	○個に応じた適切な支援 （不登校対応、教育相談等）	・組織的な支援 ・研修計画 ・学校全体での支援体制の構築	A	○外部の方の研修や、外部・地域・諸関係機関の方とのヤングケアラーについての講演、シンポジウムを通して、生徒が相談しやすい環境ができた。 ○個に応じて、組織的な支援を関係機関と協力して、支援が継続的に行われている。 ●支援を必要とする生徒は各クラスに在籍している。一人ひとりの支援の仕方を再度、検討して成長につながるよう、継続的に支援をする。
	○学校間連携教育	・校区内小学校との連携、協力 ・近隣の地域の幼保との交流	B	○近隣小学校（谷塚小、氷川小）とのあいさつ運動や授業参観について行うことができた。今年度より、６年生対象の１日体験授業、近隣の園への作品交流を実施することができた。 ○読書活動では、中学校から小学校への読み聞かせの動画の提供、３校合同で考えた、本の作品について給食の実施等、学校区で読書に関する関心や意欲が高まった。 ●交流活動は定期的に開催されたが、一部の職員が中心となって進めたため、今後は学校全体でより一層、一貫教育の推進を図る必要がある。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

個に応じた適切な支援では、外部の方を招いた研修、ヤングケアラーについての外部の方や地域の方を招いた講演により生徒が相談をしやすい環境をつくることにつながった。また、職員のスキルアップにもつながった。支援を必要している生徒への適切な支援について、今後も学校全体、必要に応じて諸機関とも連携を図り、組織的・継続的に支援を行っていく。

学校行事では、今年度、概ね予定通りに開催ができた。生徒一人ひとりが主体となって企画・立案して、多くの生徒が活躍する場面が見られた。学校行事をとして、学級の雰囲気がよくなるなど、学校行事のよさを改めて感じた。学校運営協議会の方からは「生徒一人一人が活躍する姿が、各行事等で見られた」という言葉を頂いた。昨今、教職員の働き方改革があり、学校行事の見直しが必要である。生徒が主体的に活躍できる場面があり、職員の過度な負担とならないような行事となるように協議していく必要がある。

どの学年も落ち着いて、授業、部活、委員会や学校行事ができている。各学力調査の結果から、県や市の平均を上回る結果が出ている。これからも、個に応じた支援を必要とする生徒が在籍しているため、支援を継続的に行う必要がある。また、本校は経験の浅い職員が多い。そのため、授業力、学級経営や生徒指導等、個々にスキルアップをする必要がある。各教科や学年、学校全体で情報共有を行い、生徒一人ひとりの成長につながるよう、教育活動をより一層充実させていきたい。

６　次年度の改善策

学習指導では、学校全体で授業力の向上に励み、相互の授業参観、小学校への参観を引き続き行っていく。年間指導計画やICT機器の効果的な活用を今後も推進していく。学校行事については、生徒一人ひとりが活躍できる場面をつくることはもちろん、一部の職員が過度の負担とならないよう組織的に対応する。保護者や地域の方が協力していただく機会を増やす。

生徒指導では、個に応じた適切な支援を諸機関と連携を図りながら、継続的・組織的に支援を行う。学級経営を基盤として、道徳教育を充実させ、いじめ防止対策や体験活動を取り入れるなど、生徒一人ひとりの心を育み、居場所や活躍できる環境を作っていく。さらに、小学校との連携を図り、目指す生徒像を改めて共有していく。

その他、経験の浅い先生が多くいるため、学級経営や特別活動、道徳等研修の機会を設け個々の指導力の向上、学校としての組織力の向上を図る。信頼される教師となるために今一度、言葉遣いや立ち居振る舞いを見直す。そして、生徒の小さなSOSも見逃さないようにする。

校舎等の老朽化や修繕の必要な箇所については、関連組織と連絡を取りつつ、学校全体で教育環境整備や校内美化活動を推進して、整備及び改善を図っていく。